

仙台デザイン専門学校
令和4年度 学校関係者評価報告書

令和5年6月

学校法人 北杜学園
仙台デザイン専門学校

1. 「学校関係者評価」の実施方法について

文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえた評価項目に沿って実施・作成した「令和4年度自己点検評価報告書」の結果について、仙台デザイン専門学校に深い関係の深い業界等の委員より評価をいただきました。

各評価委員には、「自己点検評価報告書」及び「学校評価」に関連する資料等をご覧いただいた上で、ご意見等を聴取いたしました。

本報告書は、各評価委員からいただいたご意見・ご提言を評価項目ごとに要約し、取りまとめております。「令和4年度 自己点検評価報告書」と併せてご覧ください。

貴重なご意見・ご提言は、今後の学校運営や学校教育の場で活かし、本校の教育目標である「デザインする心」を持った有能なる人材育成に努めてまいりたいと存じます。

令和5年6月
学校法人北杜学園
仙台デザイン専門学校
校長 鈴木 一樹

2. 学校関係者評価委員一覧表

氏名	選出区分	職名	備考
和田 冬樹	企業関係者	仙台デザインワークス株式会社 代表取締役社長	外部委員
大泉 由梨	企業関係者	BUCHICO DESIGN 代表	外部委員
北折 整	学識経験者	東北生活文化大学 副学長 美術学部教授	外部委員

3. 基準評価ごとの学校関係者評価・意見

(1) 教育理念・目的

【現状及び課題】

- 教育目標や教育理念、将来像等は学生便覧に掲載し、新入生ガイダンスにおいて学生にしっかりと伝え、指導している。また、保護者に対しても同資料を配布し、本学の概要について周知に努めている。外部への周知については北杜学園ホームページ上に仙台デザイン専門学校として展開しており、更に本校 SNS 等により学生生活や学修成果、イベントに至るまで幅広く告知を行っている。
- 令和元年度よりシラバスのガイドライン作成やシラバスのフォームの刷新を図り、授業計画に活かしている。

【関係者評価・意見】

- 教育理念や目標の制定と周知徹底は組織運用において最重要事項であり、それに対し学校法人・教職員が一丸となって取り組まれている。
- 学校における職業教育の特色を明確に提示し、育成人材像や将来構想などが生徒・保護者にしっかりと周知されている。
- 適切であると判断（評価）する。

(2) 学校運営

【現状及び課題】

- 学園方針に則り年度目標を定め、就職内定率、資格取得率、退学防止等を設定し、教職員が団結、協力して業務に取り組んでいる。また、シラバスや履修時間を確認し、各項目において自己点検を実施しており、コンプライアンスに努めている。
- 教育活動に関する情報はHP等で適時公開しているが、令和元年度よりシラバス等の情報公開を行っている。
- 具体的な教育内容等については学校案内パンフレット、学校HPを通して関係業界や地域社会及び入学希望者等に向けて最新情報を発信している。
- 学校財務情報、学校自己点検評価、学校関係者評価については文部科学省のガイドライン等に従って、適切に公開している。

【関係者評価・意見】

- 平時だけではなく昨今のコロナ禍における対応でも、混乱することなく盤石の体制で学校が運営されており素晴らしい。
- シラバスだけでなく、具体的な授業内容や財務情報などが明確に公開されている。学校案内のパンフレットや学校ホームページなどで、最新の情報を発信している。
- 適切であると判断（評価）する。

(3) 教育活動

【現状及び課題】

- 教育理念、業界ニーズを踏まえた人材育成の観点から、カリキュラムの見直しを行い、必要に応じて整備している。
- 授業評価においては学生による授業評価アンケートを毎年実施し、各教員へフィードバックしている。これにより、授業方法や学生対応、授業資料等の改善等に努めることができ、学生の授業満足度の向上につながっている。また、職業に関して外部講師による就職ガイダンス等実施しているとともに、求人先より就職試験結果のフィードバックを受ける等、企業と連携し学生支援に取り組んでいる。

【関係者評価・意見】

- デザイン業界の状況が刻々と変化する昨今であるが、それに合わせたカリキュラムの作成等の教育活動は十分に行われている。進化のスピードは今後ますます加速することが予想されるので、更なる対応を期待している。
- コロナ禍で様々な制限がある中で、外部との連携において閉鎖的になっている面もあると感じる。外部講師による講話や販売実習など外へ向けた活動も重要ではないか。
- 適切であると判断（評価）する。

(4) 学修成果

【現状及び課題】

- 担任制のため、学生指導、生活指導や面談、相談等にきめ細かく対応できている。保護者との連絡も密に行っており、情報も共有している。
- 経験者が優遇されるデザイン業界の厳しい採用状況に対応するため、就職活動の実践的なカリキュラムとして、1年次に必修科目「就職指導Ⅰ」にて、社会人としてのマナー・心構え・自己分析を行い、2年次には選択科目として「就職指導Ⅱ」で履歴書作成・面接指導等企業対応の指導を実施し就職率向上につなげている。
- 就職内定者の向上を目指すためには、就職担当者、学生及び担任との連携が不可欠であり、今後も密な連携を行っていく。
- 退学者の中で高等学校までの不登校や生活習慣、精神的特性に社会・業界とのギャップがあり、退学に至るケースが少なくない。その差をどの程度まで埋め、モチベーションを維持しつづけられるかが退学率軽減の鍵となる。また、精神的な問題による不登校や退学のケースが増加傾向にあるため、学生相談室を開設し、専門のカウンセラーによる対応に力を入れている。

【関係者評価・意見】

- 学修レベルを向上させることで優秀な人材輩出の増加につながるが、その半面追従できなくなる生徒が現れることは致し方ないことと考える。その中でもバランス調整に最大限の尽力をされていることがうかがえる。
- さまざまな事情、疾患を抱えた学生が増えているので、退学率軽減は困難。向上心のある学生のサポートに務め、在学中及び卒業後も、積極的にデザインに取り組む姿勢を評価していくべきと感じる。

- 適切であると判断（評価）する。

（5）学生支援

【現状及び課題】

- 各担任、教科担当者が学生本人および保護者と連携し、デザイン関連業界で幅広く活躍できる技術の習得に励んでいる。また、定期的に出席状況や各教科における成績を保護者に報告、問題があると判断される場合は保護者面談等も実施している。
- 日本学生支援機構奨学金、高等教育の修学支援新制度や寮・アパートの斡旋など、学生への経済面・生活面に対する支援を行うとともに、学内に学生相談室を設け、専門のカウンセラーによるさまざまな悩みに対する相談を行い、精神的な悩みや不安を抱える学生のケアに努めている。
- 職業理解をはじめガイダンス等への参加や教育環境の開放等も実施、中高校生等へのキャリア教育推進にも努めている。
- 社会の動きや就職活動を取り巻く現状認識が低く、就職活動を先送りする傾向が強い学生のため、効果的な現場の声として、内定者講話・OB講話・企業講話・就職相談会など各種就職ガイダンスを開催し、学生の意識改革に継続的に取り組んでいる。

【関係者評価・意見】

- 進路・就職や経済面に関する支援は十分に行われている。学生個人のプライベートに関することに踏み込み、支援することが難しい世情となっているが、その中でも最大限の支援に尽力されている。
- デリケートな問題を抱える学生も多い中、専門のカウンセラーによる支援などをきめ細やかに行っていると感じる。教員と学生の間で、授業での疑問や将来への不安などを気軽に相談できる関係が確立できていると思う。
- 適切であると判断（評価）する。

（6）教育環境

【現状及び課題】

- 職業人を輩出するために、より高度な職業教育、実践教育を目指してパソコンやデザインツールの更なる充実を図る必要がある。ネットワーク環境については各HRに無線LANを配備し利便性の向上に努めている。校内3カ所にリモートでの説明会及び面接等に対応する専用ブースを設置、学生の就職活動に活用している。
- 学校消防計画及び安全計画などの防災に対する体制が整備されている。

【関係者評価・意見】

- クリエイティブ・デザイン業界の動向に合わせて、教育現場の環境も年々十分な状態まで更新されている。
- タブレットやPCなどにおいて最新の機器を導入し、授業を行っている。教員側も常にアップデートを行い、現在の業界において本当に必要とされる最新の知識・技術を把握し、授業内で伝達していく必要があると感じる。

- 適切であると判断（評価）する。

（7）学生の受入れ募集

【現状及び課題】

- 学校案内やホームページ、学校説明会、模擬授業、その他進学情報誌等に掲載する情報ならびに説明表現については、真実性、公平性、明瞭性を考慮して公開している。また、資格取得実績や就職、卒業生の活躍等の教育成果についても「個人情報公表に関する同意書」に基づき公開している。
- 学納金は、教育内容、学生本人および保護者の負担感を考慮したうえ設定し、募集要項に明記している。

【関係者評価・意見】

- ウェブサイト等での学業やスクールライフの紹介やオープンキャンパス等での模擬授業により、入学希望者が事前に十分な情報を得られているよう設えている。学費もカリキュラムに対して相場どおりの設定になっている。
- 広報スタッフと教員が連携し、SNSやHPなどを活用して常に新しい情報を発信している。
- 適切であると判断（評価）する。

（8）財務

【現状及び課題】

- 財務に関して、本校は堅調な運営の結果、過去3か年度にわたり、帰属収支差額は黒字で推移しており、安定した財務基盤を有している。また、予算・収支計画は過年度の財務状況に照らして、有効かつ適正に行われている。
- 会計監査については、監事が、理事会及び評議員会に出席し意見を述べ、また、学校法人の業務及び財産の状況について監査し、毎会計年度後、監査報告書を作成し、当該会計年度終了後2ヶ月以内に理事会及び評議員会へ提出している。
- 学園全体として、監事の監査を支援するために、学校法人運営状況の定期報告、公認会計士及び内部監査の担当部署として設置している業務監査室との意見交換、学校法人制度の最新情報の提供などを行っている。

【関係者評価・意見】

- 財務情報が公開されており監査も適切に行われているため、問題ない。
- 適正な財務計画が立てられている。
- 適切であると判断（評価）する。

（9）法令等の遵守

【現状及び課題】

- 全教職員は学園が掲げるコンプライアンスの意識をもち、各業務にあたっている。また、定期的に自己評価を行い、日々の業務等における問題点がないか確認・改善に努めている。

○個人情報保護に関しては、「学校法人北杜学園 個人情報保護規定」に基づき、学園が有する個人情報については、学園プライバシー・ポリシー（個人情報保護方針）に基づく適正な保護の実現を図っており、資格取得実績や就職、在校生・卒業生の活躍等の教育成果等「個人情報公表に関する同意書」による同意を得た上で事実に基づき公開している。

【関係者評価・意見】

- 法令・専修学校設置基準によるコンプライアンスは全教職員に浸透しており、遵守され適正な運用がされている。
- 個人情報保護への対策などが周知徹底されていると感じる。
- 適切であると判断（評価）する。

（10）社会貢献・地域貢献

【現状及び課題】

- 本校は、社会に貢献しうるデザインマインドを持った人材育成を目標としており、日々の鍛錬において習得したデザインスキルをもって、社会貢献・地域貢献を目指し、社会活動や地域活動を推奨している。パブリシティを考慮した課題テーマや、各地方自治体や企業・団体等からの依頼に基づくテーマを取り上げるなど幅広く社会のニーズに対応している。
- 企業との連携により、企業主催のデザインコンペの企画に協賛し、授業課題として作品を仕上げ、その作品を出展し実績を上げている。
- 現在、テクノロジーが加速度的に進んでいる中で、学校でデザインを学ぶだけでは足りなくなっていると思われる。基本的なデザインの知識は大変重要であるが、それに加え新しいメディアやデバイスなどに即座に対応できるように、常に新しい手法を学び続けることが必要とされる。

【関係者評価・意見】

- 教育目標から「社会の貢献」を提示し、その意識を持った人材を育成・排出されていることは大変素晴らしいことであると考えます。
- 外部コンペへの積極的な参加がうかがえる。常に、現在のニーズに合った手法や技法をしっかりと学び、世の中に作品を発信していく必要がある。
- 適切であると判断（評価）する。

4. 学校関係者評価 総評

- 新型コロナウイルスの蔓延から収束まで、世情とクリエイティブ・デザイン業界の動向が激変する中、学校・人材育成機関として素晴らしい対応を取られたと評価する。貴校が育成する人材の需要は今後も加速度的に高まることが予想されるため、今後ますますの人格と技術双方の育成を踏まえた教育体制の拡充を大いに期待している。
- 昨年度においてもコロナウイルスによる大きな感染拡大を引き起こすことなく授業を運営していくことは容易ではなかったと思うが、教職員がきちんと連携し、学生たちが安心して安全な学校生活を送れるよう尽力されていたと感じる。
- 1～10の項目すべてにわたり適切であると判断する。特に「8.財務」における安定した財務基盤の維持は評価に値する。実際に高校生を対象とした各種の進学・入学説明会で、貴校のブースにたくさんの相談者が来訪しているのを見かける。若者のニーズに即応し、常に教育内容を見直し、社会に貢献しうる「デザインする心」を有する人材の育成を大いに期待する。